

植物と人々の博物館メールマガジン

第 75 号 2021 年 5 月 3 日発行

赤い大輪のつるバラ、紫色系のクレマチス、黄色のテイカカズラなど、道沿いに満開で、毎年、道行く人々に褒められています。プランタに植えた雑穀や野菜を見て行く人々も多く、ささやかながら地域に役立っており、とてもうれしいです。

素のままの美しい花々、物事、作品、言葉、その中に真情を見いだしては称賛し、日々の暮らしの中で共感し、結び、希望を求めて励まし合いたいです。

ぜひ一緒に、植物をめぐる生物文化多様性の保全のための調査研究や普及活動にご参加ください。

くれぐれも、お大事にお過ごしください。

憲法記念日ですので、憲法に環境原理を加える提案について書いたものをご紹介します。

国会議員会館で環境文明 21 主宰の憲法シンポジウムでも提案しました。

自分で日本国憲法を考える (ppmusee.org)

1. 植物と人々の博物館

1) 開館・作業予定日：ウイルス対策のため**休館**しますが、御用のある方は御連絡下さい。

2) 雑穀の種子継ぎ：

小菅では秋子さんの丹精で良い種子が十分採種できましたので、是非栽培していただきたく、本年 5～6 月に播く種子（アワ、キビ、モロコシ、ヒエ、ハトムギ、シコクビエ）を差し上げます。

小金井でもプランタで栽培します。藤野の宮本茶園でも種子継しています。メールでご住所をお知らせください。

3) 民族植物学ノオト： 第 15 号電子版は原稿募集中です。締め切りは 2021 年 12 月末、2022 年 3 月発行予定です。

これまでのすべての記事 pdf は植物と人々の博物館ホームページ（下記：ミュージアムグッズ）で読めます。国会図書館にも収録されています。バックナンバーは僅少ですが、希望者に無料で差し上げます。

メールマガジンもすべて記録してあります。

www.ppmusee.org/goods.html

4) 電子書籍：植物と人々の博物館ホームページ（ミュージアムグッズ）に電子書籍（既刊）の項で読めます。これら出版物は国立国会図書館のeデポに登録され、公開されます。

発行及び近日発行予定：一部公開中、上記ウェブサイトで読めます。

発行予定：『山村農人降矢静夫対談集』（降矢静夫・木俣美樹男）

* 『第四紀植物』第5章イネ科数属の生態的一年生化、近日中に公開します。

一部公開中：『雑穀の民族植物学—インド亜大陸の農山村から』、『日本雑穀のむら』、『第四紀植物』は順次公開しています。“Essentials of Ethnobotany”の一部公開はまだ先になります。

これらは書き終えたら、電子出版にします。

木俣美樹男 2021、クリンネス連載随筆継続、7月号、9月号、11月号。

5) ジュズダマ属栽培試験のデータベースを公開します。

6) 寄贈など

「お米の勉強会会報」「クリンネス」「現代農業」「うかたま」「地域」ほか。

7) 植物と人々の博物館基金 PPM Foundation の提案

大口寄附ではなく、クラウド・ファンディングや助成・補助よりも、できるだけローテクで1円玉からする募金を以前から考えていました。

植物と人々の博物館の維持のために始めたいです。

2. 雑穀街道普及会：

自給農耕ゼミなどをZOOMで行い、栽培、加工、調理、販売など技術的な事も経験交流し、学びを拡げるために、ゼミは一般公開したいです。

愛媛の宮本さんと土井さんが会員になってくださいました。

藤野のローカル・シード・バンクは、飯野さん、玉木さん経由で、東京農大の河瀬さんのところに移管されたようです。それぞれのところで活用されてありがたかったです。市民レベルでの在来品種保存はなかなか困難で、長崎の岩崎さん、福岡の宇根さん、三重の坂番さんらのご努力はととてもたいしたことでした。

雑穀街道普及会の会員や賛同者になっていただければ嬉しいです。趣意書や会則など、街道美味」は下記のホームページをご覧ください。

会費は任意、会の規模が大きくなり、事務経費が必要になるまでは求めません。

遠くアフリカなどから極東にまで伝播してきて、縄文後晩期以降、この島嶼に住む人々の命の糧であった雑穀、日本における伝統的な雑穀栽培は今にもいよいよ絶滅しそうな状況にあります。生きた文化財は種継をしなければ、死んでしまい、もう生き返らせません。生物文化の伝統も継承されません。

全国各地の伝統的雑穀栽培継承者が90歳を超えようとしています。

雑穀農耕文化複合は日本の山村が世界に誇る生きた文化財として継承すべきです。

雑穀街道をFAO世界農業遺産に登録申請する提案普及を続けます。広い心をもって、個人も地域社会も全国へ、さらに世界の起源の地にまで街道を繋げてほしいです。

2023年は国際雑穀年になります。

どうぞご助力いただけますようお願いいたします。

* 下記ホームページに活動の現況や関連資料を順次更新していきます。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millstr.html>

なお、45年間、調査研究してきた『日本雑穀のむら』第3章関東地方・第4章関東山地で、雑穀街道地域の調査研究の成果(1974~2017)をまとめてあります。現在は第5章中部・北陸地方を整理しています。

<http://www.milletimplic.net/milletworld/millet/sn/jnmpilvil.html>

3. 環境市民連合大学 Civic United University for Environmental Studies

環境学習理論・実践「環境学習原論」を普及啓発する目的で、ウェブサイト(仮案)を準備しています。

主旨は、市民社会の自由、平等、友愛を基本原則として、自らが学びあう市民連合大学をリンク・ページとして、インター・ネット上に創立したいと思います。原初の大学は学び合いたい人々の学習者組合でした。

入学資格、試験、授業料、卒業資格はありません。ただ、学び合いたい人々が存在するだけです。

学ぶ意味や大学について改めて考え直したいです。このサイバー大学は任意無償提供の学習素材、任意寄付で維持します。

この提案にご賛同の方々の参加（リンクなど）を広く求めます。よろしくご連絡をお願いします。

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

4. 自然文化誌研究会

主な活動予定：詳細は下記ウェブサイトにあります。

5月3～5日開催予定 冒険学校スタッフ研修会、参加者は限定します。小菅村

8月5～11日 こすげ冒険学校、小菅村

9月25～26日 INCHまつり、小菅村

5. 他団体

小金井環境市民会議：小金井市環境条例に基づく市民団体 CSO

環境学習部会では、小金井環境楽習館および ZOOM で、環境楽習会「環境学習原論」を、偶数月末日曜日 10：30～12 に開催（予定）します。一般無償公開しますので、参加希望を木俣宛お伝えください。申込者には直前に ZOOM の URL をメールでお伝えします。

資料は環境学習市民連合大学のサイトで公開します。

~~~~~

**植物と人々の博物館**（山梨県小菅村）：館長：木下善晴、顧問研究員；安孫子昭二

研究員：木俣美樹男（東京、運営委員）、西村俊（石川、担当理事）、藤盛礼恵（千葉、運営委員）、川上香（長野）、渡辺隆一（長野）ほか

公式 HP：植物と人々の博物館 <http://www.ppmusee.org/>

**環境学習市民連合大学**

<http://www.milletimplic.net/university/civicuues.html>

#### **雑穀街道普及会**

<http://www.milletimplic.net/milletsworld/millstr.html>

事務幹事 メールマガジン発行：木俣美樹男 [kibi20kijin@yahoo.co.jp](mailto:kibi20kijin@yahoo.co.jp)

民族植物学関係 HP: 生き物の文明への黙示録 <http://www.milletimplic.net/>

**エコミュージアム日本村／ミューゼス研究会／トランジション小菅**（山梨県小菅村）：代表 亀井雄次（山梨小菅村）

**自然文化誌研究会**：代表 中込卓男（東京）、副代表 中込貴芳（東京）、小川泰彦（埼玉）

<http://www2.plala.or.jp/npo-inch/>

事務局長：黒澤友彦（山梨県小菅村） [npo-inch@wine.plala.or.jp](mailto:npo-inch@wine.plala.or.jp)

~~~~~

木俣美樹男 Mikio KIMATA kibi20kijin@yahoo.co.jp

植物と人々の博物館／日本村塾、雑穀街道普及会

[Nihonmura College for Environmental Studies, Plants and People Museum](#)

公式 HP: <http://www.ppmusee.org>

個人 HP: <http://www.milletimplic.net>